

実践 ～発表会当日～

児童一人一人の「できること」の状況を表にしました。発表会で、児童の力が最大限に発揮できるように、全ての教員が一人一人の「できること」を共有し、授業に当たりました。

◎…一人でできる。 ○…ほぼ一人でできる。
△…必要に応じて支援。 ※…個別支援が必要

児童名	場面① 掛け合い	場面② かくれんぼ	場面③ 追いかっこ	場面④ ダンス	「ここが見どころ!!」 (支援の工夫)
A	△	△	○	○	「追いかっこ」で「走り回る・笛で止まる・走る」ができるようになった。
B	○	△	△	◎	ストーリーの展開を楽しみながら、積極的に参加している。
C	◎	◎	△	◎	セリフや歌詞を覚え、主体的に演じている。特に「かくれんぼ」で見つかる場面がとても上手。
D	△	○	△	△	自分からかくれに行くことができ、楽しんでいる。(移動時注意・安全優先)
E	※	※	※	※	セリフのやり取りを覚え、大きな声で言える。(安全配慮)
F	◎	◎	◎	◎	自分でかくれることができる。「追いかっこ」を楽しみにしている。
G	※	※	※	※	オオカミとのやりとりの表情が豊か! (教員の支援は背後から、できるだけ少なく)
H	△	○	○	○	「しまった」のセリフが一人と言える。一人でできることが増えた。
I	◎	◎	◎	○	「かくれんぼ」で見つかった時の登場の仕方を見てほしい
J	※	※	※	※	BGMに合わせてリズム打ちを楽しみ、教員と一緒に歌っている。
K	◎	◎	◎	◎	ストーリー、セリフをよく覚えている。一人でできるところを見てほしい。
L	○	◎	◎	◎	ほぼ支援なしでできる。劇に入り込んで楽しく演じている姿を見てほしい。
M	○	○	◎	○	動き出しのきっかけを少し支援すると一人でできる。



発表会当日は、大勢の保護者や家族の参観で教室がいっぱいになりましたが、児童はいつもどおり元気に劇を楽しみました。自分の好きな場面を保護者に教えるなど、自信をもって活動に参観する姿が見られました。

保護者より



子供が楽しそうにしている姿が見られてよかったです。観ている側もとても楽しめました。

帰宅後、突然劇のことを思い出して、「しまったーを言い忘れた！」と話していました。とてもかわいい劇でした。

家でも劇ごっこをしています。オオカミ役の先生の真似をして、「おかさんだよ。開けておくれー。」と言って楽しんでいます。

「ヤギさんのかくれんぼ」の歌がお気に入りです。寝言でも歌っていました。

家で、ヤギさんの衣装を「じゃーん」と見せてくれ、弟にヤギさんのかくれんぼのお話をしていました。



毎回の授業に、児童が楽しそうに取り組む様子が印象的な単元でした。その様子を見て、教員集団の「もっとよくしたい」という意欲が高まり、展開の中で教材や支援の方法がさらに工夫・充実していきました。教員も役割分担をしたことで、授業準備や環境設定に十分時間をかけることができたことも、効果的であったと思います。

単元づくりを通して、教員集団の授業づくりへの取り組み方や、児童の「できること」を重視した実態把握など、教員としての専門性も高められた取組となりました。

単元づくりのアイデア

実践例として紹介した単元の他にも、児童・生徒の生活上の課題や「できること」に基づき、様々な単元をつくることができます。ここでは、単元のテーマとして取り上げられることが多い「行事」を扱った単元例と、遊びを中心とした単元づくりに取り組んだ例を紹介します。

「移動教室」をテーマとした単元づくり

「行事」をテーマとした単元を展開するためには、児童・生徒が「できること」を発揮できる「行事」であることが求められます。また、「行事」の実施に当たって、児童・生徒が主体的に計画や準備を行うことができるかどうか、という点も考慮する必要があります。「行事」を生活単元学習で扱う際には、「行事」そのものを見直すことも必要です。

「移動教室」をテーマとして単元づくりを行った中学部の事例です。

単元名：「太鼓ばやしで交流会」



単元づくりのポイント

- ・ 移動教室の中で「活動の盛り上がり」となる内容をテーマに単元を構想する。
- ・ 生徒が考えて活動をつくり上げたり、自分たちで準備したりすることができるような行事の実施計画を立てる。

< 移動教室の予定 >

- 1日目 集合・移動
レクリエーション
- 2日目 野外調理
地域のお囃子保存会との交流
- 3日目 ハイキング
移動・解散

移動教室のメインとなる交流活動をテーマとした単元に取り組んだことで、移動教室全体に自信をもって取り組むことができました。



この活動をテーマに単元をつくろう！

移動教室では、安全に対する配慮も重要です。「単元づくり」の前提として、児童・生徒の実態・経験を考慮した上での施設や環境の十分な把握と、安全の確認が必要です。

< 単元の構成 >

移動教室の予定を知る

↓ 保存会の方とビデオレター交流

交流会の計画・準備

↓ 太鼓ばやし練習
進行準備等

太鼓ばやし発表会
(校内発表会)

→ 移動教室へ

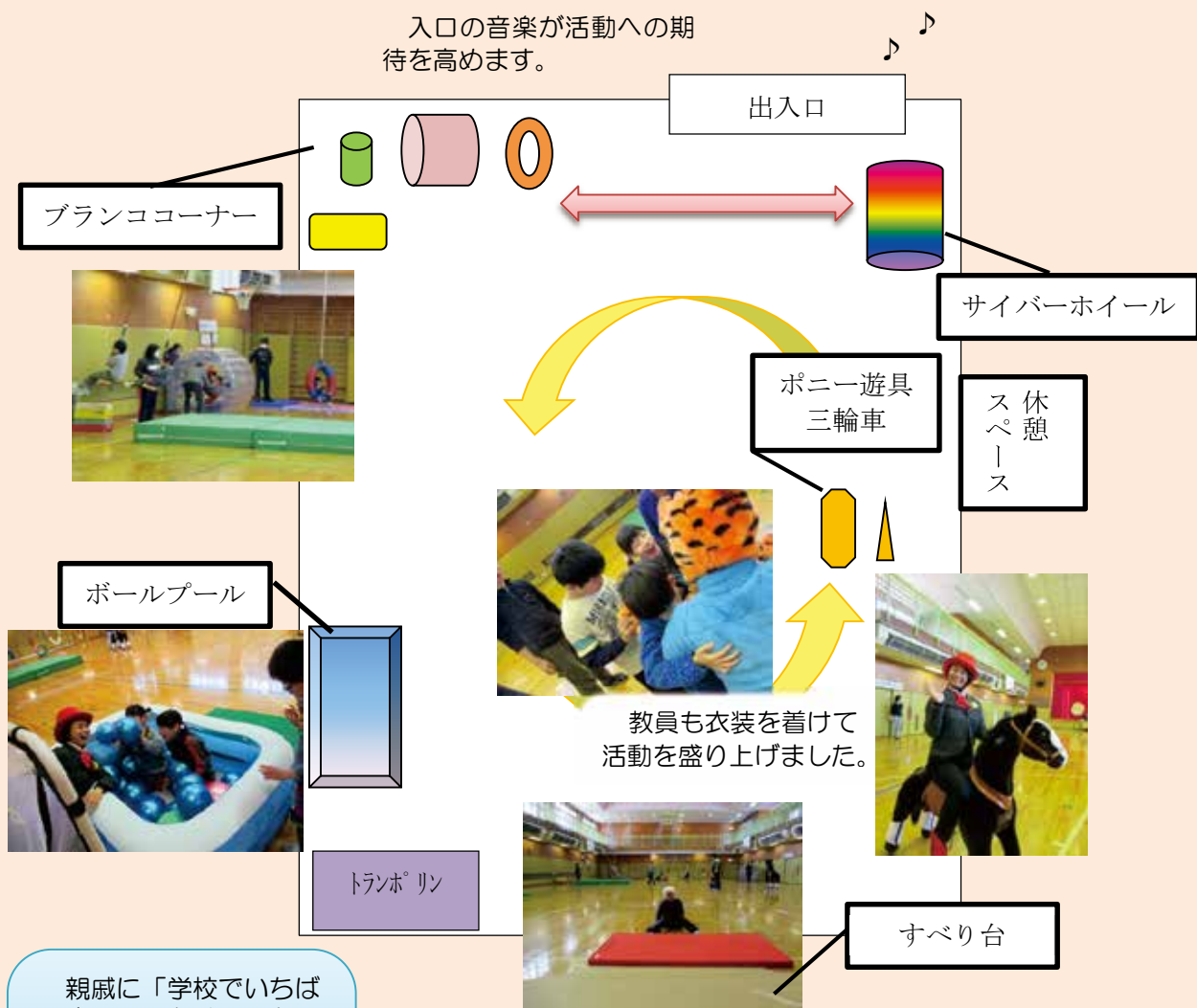


「遊び」を中心とした単元づくり

小学部の低学年で「遊びの指導」を設定している学校もありますが、生活単元学習の展開において、遊びを多く含む内容を扱う場合もあります。

遊具の配置や動線を工夫し、児童が十分に楽しみながら積極的に遊べるよう、体育館を楽しい遊園地につくり上げた活動例です。

単元名：「○○ランドへ行こう」 ※○○…学校名



親戚に「学校でいちばん楽しいことは？」と聞かれた子供が「○○ランド！」と答えるのを聞いて、本当に楽しみにしているのだな、と感じました。



児童が毎回の授業をととても楽しみにした活動で、教員も一緒に、準備や活動を楽しみました。

休み時間や授業外の時間には、他の学部や学年の児童・生徒も参加し、一緒に遊ぶ機会が増えました。活動の始まりと終わりを音楽で知らせることで、授業に向かう児童の気持ちの切り替えがスムーズにできました。

生活単元学習の更なる充実に向けて

年間指導計画の改善 ～「まとまり」を意識した配列へ～

活動のテーマごとに別々に作成していた指導計画を一つに合わせ、関連する内容同士を結び付けるなどして単元を再構成しました。

当初の指導計画			
	調理を中心とした単元	集団での活動の単元	生活に関する内容・歩行単元
4月		風船バレー	野菜の栽培 図書館へ行こう そうじをしよう
5月		↓	
6月	野菜炒め	ダンス、ゲーム	
7月	↓	模倣遊び	↓
9月		運動会に向けての活動	運動会練習
10月			

それぞれの活動を
組合せて「単元」をつくる

改善した指導計画

	単元名	主な活動
4月	野菜の苗を植えよう	畑の土づくり、苗植え
6月	夏野菜パーティを開こう	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の収穫、調理 パーティの企画、準備
7月		
9月	運動会～〇〇応援団～	
10月		

年間指導計画の充実 ～流れのある活動へ～

短い時間で設定することが多く、「ストーリー」が見えにくかった単元を、それぞれの活動を取り入れつつ時間をかけて取組む単元も設定しました。

月	時数	単元名	月	時数	単元名
9	2	水遊びをしよう	9	16	秋まつりをしよう <ul style="list-style-type: none"> 計画、出店の相談 屋台づくり 招待状 ・収穫物を使っておやつをつくる。 ・経営企画室の職員や地域の人と関わる機会をつくる。
	2	ダイコンの種をまこう			
	2	サトイモを収穫しよう			
	4	学校で働く人を知ろう			
	6	町で働く人を探そう <ul style="list-style-type: none"> 校外歩行 地域との交流 			

今後の生活単元学習の充実に向けて、授業づくり、単元づくりとともに、授業形態や年間指導計画の見直しなど、学校としての取組が求められていきます。年間指導計画の改善や活動しやすい時間割づくりに取り組んだ学校の例を紹介します。

時間割、授業形態の工夫

例1 毎日、同じ時間に生活単元学習がある時間割

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					

「モザイク状」に配置されていた「生活単元学習」を…



	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					

時間数を増やし、毎日同じ時間帯に設定

これまで、曜日ごとに異なる時間帯に「モザイク状」に配置されていた「生活単元学習」の時間を、帯状に設定し、「毎日同じ時間に生活単元学習がある」環境をつくりました。また、全ての「生活単元学習」の時間を同じ授業形態で取り組み、概ね「一か月一単元」で単元を構成するようにしました。このようにすることで、年間を通じた単元の指導計画が立てやすくなりました。

例2 単元の展開に応じた柔軟な授業形態で活動

	月	火	水	木	金
1	学級			学年	学年
2		学級			学年
3					

学級、学年でそれぞれ異なる単元に取り組んでいたものを、授業形態は生かしつつ同じ単元テーマで取り組む。



月日	曜	1時間目	2時間目	3時間目
○/○	金	劇遊び（全場面）		
○/△	月	劇遊び（場面②）		
○/□	火		道具作り	
○/●	木	衣装作り		
○/▲	金	劇遊び（全場面）		

■…学年で活動 ■…各学級で活動
■…グループごとに活動

実践例3「ヤギさんのかくれんぼ」(P36～P41)では、学年ごと、学級ごとに異なる展開で取り組んできた「生活単元学習」を、授業形態は生かしつつ、学年全体で取り組む活動と学級（グループ）で取り組む活動とに展開を分けて構成しました。曜日ごとに活動は異なるものの、いつも同じテーマで単元に取り組むことができ、見通しがもちやすくなりました。

「生活単元学習」について話し合える校内体制の整備

単元テーマに応じた授業形態を工夫し、時間割や指導体制を考えていくためには、学校や教員集団の「単元づくり」に対する理解を深めることとともに、単元の配列状況や1年間の流れが把握しやすい年間指導計画を立てることが必要です。

まずは、年間指導計画を見ながら、各学部・各学年の1年間の単元の流れがどのように計画されているかを共有できるようにしましょう。その上で、「単元づくり」について以下のような話し合いの場の設定をすることも効果的です。

例1 「生活単元学習特別委員会」の設置

- ◆参加者 小学部の各学年の生活単元学習の担当教員
小学部主任、研究部の担当者、教務主任
- ◆開催頻度 年間4～5回（学期当初、学期末）
- ◆主な内容
 - ・各学年の年間指導計画の確認
 - ・各学年の授業実践をビデオで共有

全校研修会・
授業実践報告
会の開催

特別委員会を設置することで、時間をかけて生活単元学習について考えたり話し合ったりすることができました。この会により、時間割の改善や年間指導計画の見直しが進みました。



例2 「生活単元学習検討会議」の開催

- ◆参加者 生活単元学習の授業に関わる教員等
- ◆開催頻度 月1回程度
- ◆主な内容
 - ・対象となる授業へのアイデア出し
 - ・児童・生徒の「できること」についての話し合い
 - ・生活単元学習の課題検討



定期的に話し合いの機会をもつことで、日頃なかなか話すことができない他学年や他学部の教員と児童・生徒の実態が共有でき、教材準備への新たなアイデアをもらうことができました。

学校全体でアイデアを出し合う「単元づくり」へ